

編集後記

会報 11 号を発行いたしました。巻頭言、論壇に加えて、2008 年 11 月に開催されました第 10 回シンポジウムの基調講演の録音記録を併せて掲載いたしました。今号は論壇に 10 名の会員からご寄稿いただきました。皆様ぜひお読みください。

会報 10 号の編集後記に玉川上水ウォーキングについて記しましたが、その後もメタボ対策を兼ねて週末に歩き続けています。これまでに神田川笹塚支流、笹塚→宇田川→渋谷川→浜松町（東京湾）、春の小川（唱歌）のモデルとなった宇田川上流の河骨川、谷端川（粟島神社→椎名町駅→板橋→小石川→神田川）、桃園川（阿佐ヶ谷→神田川）、千川上水（武蔵境で玉川上水を分水→途中から千川通り→西巣鴨）、筈川（渋谷川天現寺橋→青山）、鮫川（赤坂→四谷）、蟹川（新宿コマ劇場裏→戸山公園→早稲田鶴巻町→神田川）、弦巻川（池袋駅西口→雑司ヶ谷→護国寺→神田川）、石神井川（小金井→王子）、黒目川（小平霊園→東久留米→朝霞→新河岸川）などを歩いてきました。千川上水（中流以降は千川通りという道路になりましたが）は玉川上水と同じように尾根筋に引かれておりました。石神井川、黒目川と渋谷川の下流は開渠ですが、あとの川は全て暗渠となっしまい、川は地上から姿を消してしまっています。しかし昔の川筋がわかる図がありました。それは各区が作成したハザードマップです。ハザードマップに示された大雨時の浸水予想地区がなんと昔の川筋に一致するのです。これはとても興味ある発見でした。また今は道路となっしまっても、蛇行しているので昔は川であったということがほぼわかります。川を地図上から消し去るのはなかなか難しいことです。

次の会報12号は本年12月の発行を予定しております。会報の発行も6月と12月の年2回が定着してきました。会員の皆様による論壇への積極的な投稿をお待ちしております。10月末までに原稿をいただけると幸いです。

（會田勝美）